

ATTENTION

知ってました？「外債の為替リスクは外国株より大きい！！」

円建て投資の米国債・米国株の為替リスク比較

米国債	リスク(σ)	米国株	リスク(σ)
米国債(A)	3.9	米国株(A)	13.6
円/ドル(B)	9.6	円/ドル(B)	9.6
円建て米ドル債(C)	8.6	円建て米国株(C)	17.6
為替増加分(C-A)	4.7	為替増加分(C-A)	4.0

・2003年11月～2013年11月の10年間

・米国債は米国総合債券指数、米国株はニューヨークダウ30種平均株価指数

・リスク値は年当たり平均利回りから約68%の確率で+-に変動する幅。値が大きいほどリスクが高い。

上の表は、過去10年間に、米国債と米国株に円で投資した場合の為替リスクがどの程度あるかを見たものです。米国債のリスクが米国株のリスクより少ないのは明らかです。債券のほうが株より値動きが小さいのは、どこでも同じです。しかしドルの為替リスクをとる円建てで見た場合の米国債のリスクは2倍以上(8.6/3.9、C/A)に増えています。一方円建てでの米国株のリスクは(17.6/13.6、C/A)29%しか増えていません！この意味するところは「債券だから安心、利回りも高い」と考えて外債に投資すると、債券のリスクより大きい為替リスクが上乗せされ、思いのほかリスクが高い投資になってしまうということです。一方外国株は、為替リスクがわずかしか上乗せされず、思いのほかリスクが低い投資になるということです。さらに両方の為替増加分(C-A)を見ますと、米国債は4.7で米国株は4.0となっていて、株のほうが為替リスクが少ないのです！！なぜこうなるかは別の機会に譲るとして、外債の為替リスクは思いのほか大きいということだけは覚えておくこととよいでしょう。さらに、ブラジルレアル建て、トルコリラ建てなど新興国債券や投資信託は、米ドルよりはるかに高い為替リスクを負っているということを肝に銘じるべきです。

OPINION

どうしたら資産運用で資産を増やせるか。

2013年の市場を振り返りつくづく感じるのは、長期の視点を持つ大切さです。現在のパフォーマンスはすぐにできるものではなく、長い間の積み重ねの産物であるということです。「人が大きな利益を上げているからうらやましい」と思って、すぐそれがほしいといっても手に入るものではありません。株価が突然半分になるリーマンショック(米国では大恐慌と呼んでいます。)のような時期を乗り越え、安いときに買い、じっと耐え続けて始めて、花が開いて大きな収穫が得られるのです。そしてそのようなスタンスで臨めば、その大きな収穫は泡と消えずに残り、さらに増えていくという維持可能な循環になって行きます。このような観点から資産運用を見ますと、人生の時間軸で臨む事が非常に大切ということです。金儲けで投資を見ずに、長くお金に働いてもらう、株価が上がれば、配当金が増えれば、ありがたいと感謝する、こういった姿勢でお金は増幅的に積みあがっていきます。

人間の投資への見方はどうしてもショートサイト(目先の視点)で、投資判断がいま白か黒か、もっと下がったら怖い、他はどう考えているか、というような短絡的、感情的、大衆迎合的な面から下しがちです。そこにクレバーな投資家が利益を生む隙を見つけるのも常です。ぜひ今年は、本来得られる投資利益を全部取り込むべく、長期の視点で資産運用を続けるスタンスを取るとよいでしょう。人生のゲームは進行中です。そしてこれからも長く続きます。

MARKET

	(12月末)	(11月末比)
日経平均	16291.31円	+629.44円
NYダウ	16576.66ドル	+490.25ドル
米ドル	105.35円	+2.97円

今月の言葉：

なぜ神がロックフェラーを選んであれほど大きな恩寵を与えたのかについては、ロックフェラー自身はいつも「自分がスチュワードシップの教え-富める者は神の単なる道具で、神の富を一時的に受託し、それを善良な目的にあてる管財人に過ぎないという考え方を固く守っていたからだ。」と語っていた。-「タイタン」ロン・チャウナウ著

資本主義精神のルーツを探訪する。

世界経済の根幹である資本主義の精神はどこにルーツがあり、その精神が現在の企業活動にどう受け継がれてきているか、年頭に当たり学んでおくのもいいことでしょう。

ルター(1483-1546)が「教会を介してではなく信者と神との聖書を介し、信仰を通じた直接のつながりによってのみ罪は許される。免罪符で許されるのではない。」とする『95か条の論題』を教会の壁に貼り付けたことから始まった宗教改革は、カルヴァン(1509-1564)によって「奉仕とは、神からの思召しである各人の職業に真面目に勤しむことだ。(職業召命説)つまり、天職として神から授けられた仕事に励み成功することが、救いの証となる。」と唱えられ、この思想はとりわけ商工業に携わるものに仕事の意義を自覚させた点で、その後の近代市民社会の倫理的母胎になったと評価されています。

さらに時代を下り、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」でマックス・ヴェーバー(1864-1920)が、以下ジョン・ウェズリーの主張を引用しています。

ジョン・ウェズリー(英国の聖職者、メソジスト派創始者(1703-1791):

-宗教はどうしても勤労と節約を生み出すことになるし、また、この二つは富をもたらすほかはない。

われわれはすべてのキリスト者に、できる限り利得するとともに、できる限り節約することを勧めねばならない。が、これは結果において、富裕になることを意味する。できる限り利得するとともに、できる限り節約するものは、また恩恵を増し加えられて天国に宝を積むために「できる限り他に与えねばならぬ」。

カーネギー、ロックフェラー(1ページ「今月の言葉」参照)財団の活動、現代ではビル・ゲイツ、ウォーレン・バフェットの慈善活動、また米国企業の株主還元(自社株買い、増配)の根底にある以下の考え方も、まさに「与える精神」から来ているといつてよいでしょう。

・増配は会社にとってもっともSacred(神聖な、不可侵な)ものである。

・我々マネージメントの最も重要な仕事は、株主にお返しすることだ。

・株主還元は、会社にとって最優先事項である。

SEMINAR

第33回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

-こうすればしっかりお金を増やすことができる-

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品を売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの被ることも珍しくありません。

- なぜ日本だけに投資してはダメか、海外投資の必要性とメリット。
- 本当に正しい資産運用法の実践法-やり方によって人生の分岐点にも。
- 証券会社や銀行がいう通りにしては、必ず失敗する。
- よい金融商品とはどういうものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。
- NISAの賢い活用法
- 証券税率アップにどう対応するか。 詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立の資産運用アドバイザー尾藤 峰男が「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！ 若い人も中高年の人もぜひお越しください。

日時 : 2014年1月25日(土)15:00~17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費: 1,000円(当日支払い)

申込み方法: メールまたは電話にて「1月25日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP 毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ! 書評ブログ

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/> <http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社
代表取締役 尾藤峰男

電話: 03-6721-8386
携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072
電子メール: info@bfsc.jp